

ストレスチェックを、組織の健康診断に ～沖縄の中小企業ウェルビーイングを高めるDXプロジェクト～

事業者名：一般社団法人BowL（浦添市／メンタルヘルス支援・EAP事業）

総事業費：11,880,000円（税込み）

1. 事業内容

(1) 概要

① 事業目的

- ・現行のストレスチェックは高ストレス判定者の9割以上が医師面接に届かず「実施して終わり」になっているケースが多い。EAP支援を行うBowL自身が実施システムを持ち、チェックデータを職場改善支援へ活用する。
- ・タブレット回覧・紙封入・郵送の**手作業を全廃し、結果通知を約1ヶ月→当日へ**。ストレスチェックを「組織の健康診断」に転換

② 事業概要（フェーズ別の開発内容）

■フェーズ1：**受検・通知・基本管理のデジタル化**（2026年11月までに稼働）

- ・QRコードでスマホ受検（厚労省57項目準拠）→スコア自動算出→結果とセルフケア助言を当日その場で通知（PDF・メール対応）
 - ・未受検者への自動リマインド、従業員マスタ・実施回管理・受検状況モニタリングの管理機能で紙運用を100%廃止
- フェーズ2：データ利活用・**分析機能の実装**（2027年1月までに稼働）
- ・集団分析ダッシュボード（部署別・経年比較）+13年の支援知見を反映した独自指標で組織の状態を可視化
 - ・AI個別フィードバックと高ストレス者の相談・面接申込動線を実装。監査ログ・権限分離と産業医の医学監修で妥当性を確保

③ 連携ITベンダー： 合同会社春秋

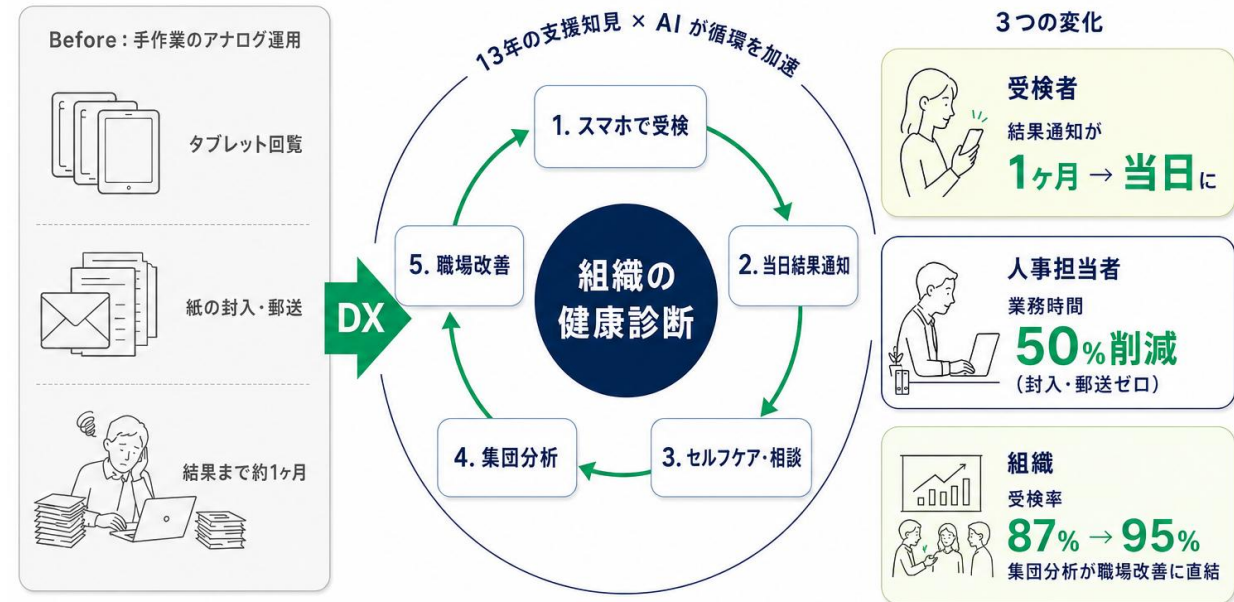
(2) 見込まれる効果

- ・**結果通知：約1ヶ月 → 当日**（当日通知率100%）
- ・**受検率：87% → 95%以上**
- ・**関連業務時間：50%削減**
- ・即時結果通知×産業医面接申込で**高ストレス者をその場で支援へつなぐ**（封入・郵送の紙運用を削減）
- ・**集団分析・独自指標が研修・職場改善に直結**し、「実施して終わり」を解消

(3) 本事業終了後のビジネス展開や今後のDXに向けた取組

- ・2026年11月：フェーズ1（受検・即時通知・基本管理）
- ・2027年1月：フェーズ2（集団分析・独自指標）稼働、既存契約先の移行完了
- ・3年以内：AI個別フィードバックの高度化、県内中小企業への新規展開、**研修・カウンセリング一体のメンタルヘルス包括支援（EAP）の年間契約モデルへ接続**
- ・**SaaS型**の年間契約モデルで継続収益を確立し、人事担当者向けセミナーや成功事例の発信で県内への普及を推進

2. 事業効果イメージ



※数値は当法人実績値および本事業のKPI目標値

3. 将来像

「2029年、**沖縄県で働くすべての人が**、規模に関わらず**本格的なメンタルヘルス支援を受けられる社会をつくる**」

- ・業種・規模別のデータ蓄積と行政・医療機関との連携を広げ、「実施業者」から365日伴走する「支援企業」へ転換
- ・50名以下の小規模事業者にも大企業並みの支援を届け、蓄積データ×13年の支援知見×AIで沖縄のメンタルヘルスケアの新標準を目指す